# 平成２８年度児童・生徒のための学力向上を図るための調査の結果

７月７日に実施した「平成２８年度児童・生徒のための学力向上を図るための調査」（第２学年で実施）について本校の結果及び、分析について報告します。

## １．各教科の分析

【国語】

おおむね良い。特に A の「読む力」、B の「解読する力」が高い。しかし、B の「読みとる力（比較・関連づけて読みとる力）」については課題がある。また、大まかな内容を問う設問の正答率は高いが、その詳細を問われる設問の正答率は全体的に低い。したがって、文章内容や課題に対し、ただ自分の意見を持つだけで終わることなく、他者の考えと比較・検討し、修正を加えていくことによって、自分の意見をさらに具体化する学習が必要である。

【社会】

関心・意欲をもって取り組み、「B の読み解く力」の力がついてきている。覚えるという「知識」に頼る傾向があるので、資料やグラフ、地図などを活用し、話し合いや調べ学習によって考えを深め課題解決していく必要があると感じた。授業だけではなく日頃からニュースや身近なことに関心を持って、自分の意見を互いに伝え合い、社会の総合的な力を付ける必要がある。

【数学】

おおむね良い。基本的内容（特に計算）身についている。正答率が低かったのは、8グラフの読み取り（関数・比例）の問題である。少し難しい内容ではあった問題文の理解と基本の一歩先の内容を身につけることが必要であると感じた。「１次関数」は苦手という生徒が多いが、粘り強く組み、皆で理解し乗り越えさせたい。

【理科】

おおむね良い。特に B の「取り出す力」は都平均 60.1 %に対して本校平均 81.3 %、「解決する力」は都平均 45.4 %に対して本校平均 60.4 %で、それぞれ 21 ポイント、15 ポイント高いことが分かった。この結果から、観察・実験結果を科学的な根拠に基づき分析・解釈を行い、他人の意見を取り入れ、自分の考えが正しいかどうかを修正するような考察の時間の充実を、今まで以上に行っていくことが重要であると感じた。

【英語】

調査結果を見ると、10 長文の読解とともに読み取り・解決する力が伸びていることが分かり好ましい。しかし、6 と 8 では基本的な文法（現在進行進行形）や文型（疑問詞で始まる疑問文）身につけて活用する力が不十分なため正答を得ることが難しかったようである。夏休み明けテストにおいてもこの点が身についているかどうかを試したが、よい結果を出せなかった生徒が多かった。英文をしっかり覚えて、正しく使えるようにすることを２学期の重点のひとつとしていきたい。

## ２．各教科の合計正答率（A+B）

※Ａ問題Ｂ問題の合計正答率について、本校第２学年正答率と東京都の正答率の比較

| | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 | ５教科 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| **武蔵野市立第五中学校** | **76.7 %** | **64.4 %** | **66.3 %** | **63.1 %** | **65.29 %** | **67.21 %** |
| 東京都 | 70.7 % | 57.7 % | 56.4 % | 54.8 % | 55.4 % | 59.0 % |